

“キッズ スマイル ラボ ジャーナル”

KIDS SMILE LABO が発行するフリーペーパー。
普段 SNS でしか見られない保育園の子どもたちの様子や、子育てに関する情報等、最新情報をお届けします。

KIDS SMILE LABO JOURNAL



小さな友達と 出会って

「あらあ」の聲が響きわたる。KIDS SMILE LABO の園長、1児の父でもある保育士子音は、日々真摯に向き合っている。趣味は写真撮影で、愛用のカメラは Nikon の。もりもりの生み出す、優しくて愛おしい世界はnoteにて随時更新中！

保育園 KIDS SMILE LABO 園長 森 音



この秋、0歳児の新しい友達が仲間入りしました。

まだ歩くこともなく、言葉よりも表情や声、しぐさの一つひとつで思いを届けている、小さな子どもたち。

その存在が加わってから、園の中に少しずつ新しい景色が生まれています。昨年まで自分たちが過ごしていた場所に、今度はもっと小さな友達がいる。一上年上の子どもたちにとっては、そのことが不思議で、気になる存在なのかもしれません。じっと様子を見たり、そっと近づいてみたりする姿が見られます。

他のクラスの子どもたちも、赤ちゃんの姿を見つけると、そっと覗いたり、声をかけたり、少し離れたところから眺めたりと、それぞれの距離感で小さな友達との時間を楽しんでいます。

一方で、赤ちゃんたちも、お兄さんやお姉さんの声に顔を向けたり、その動きを目で追ったりしています。

まだ言葉を交わすことはなくても、互いの存在を感じながら過ごしている。

そんな姿を見ると、人と人との関係は、言葉から始まるものばかりではないのだと感じます。

「気になるから、見てみる。」

その小さな気持ちから、誰かとの関わりが始まっていく。

そして、誰かがそこにいることで、自分の気持ちや過ごし方も、少しずつ変わっていく。

赤ちゃんが近くにいると、ふと足を止めて、その小さな姿をじっと見つめています。

眠っていることに気づけば、小さな声になったり、そっと離れていたり。泣き声が聞こえれば、「どうしたのかな」と気にするように振り返ったり、近くにいる大人の様子を見ていたり。赤ちゃんが笑えば、つられるように笑ったり、嬉しそうにその顔を眺めたり。誰かに「こうしてあげよう」と教えられたわけではなくても、目の前にいる小さな友達を感じながら、その時々に関わり方を見つけています。そうした一つひとつの姿を見ていると、子どもたちは誰かと一緒に過ごす中で、相手を知るだけでなく、自分自身のあり方も少しずつ見つけていくのだと感じます。

0歳児の子どもたちは、まだ園で過ごし始めたばかり。それでも、その小さな存在が、すでにたくさんの人々の心を動かしてくれています。

新しい友達が加わるということは、ただ仲間が増えるのではなく、一人ひとりの毎日に、新しい出会いや気持ちが生まれることなのかもしれません。これから一緒に過ごす中で、どんな「気になる」が生まれ、どんな関係へとつながっていくのでしょうか。

小さな友達を迎えた KIDS SMILE LABO で、子どもたちが互いの存在を感じながら、それぞれのペースで関わりを見つけていく姿を、これからもそっと見守っていきたいと思っています。

kidssmilelabo.com

@kidssmilelabo
@kidssmilelabo

KIDS SMILE LABO
@KIDS_SMILE_LABO



Over the past month, each class has been bustling with activity. Our homeroom teachers have carefully crafted these class reports with great affection. We invite you to enjoy reading about their journey. This is the page for the classes of children aged 3 to 5.

Minamo Ozora Daichi

風と出会って、遊びが広がる

text by Aiko Matsusaki

「今日のアートの日は何するの?」と、朝から楽しみにしていた子どもたち。普段は置いていないサーキュレーターや大きな扇風機を見つけると、「なんでこれあるの?」「どうやって使うの?」と、さっそく気になる様子を見せていました。

大きな扇風機が動き始めると、すぐに近づき、手をかざしたり顔に風を浴びたり。「風、きた!」と、まずは風そのものを楽しんでいました。そんな中、一人の子が折り紙で作った紙飛行機を扇風機に近づけ、「紙飛行機、飛ぶかな?」と、そっと手を離しました。ふわっと風に乗って飛ぶ様子を見て、「これも飛ぶんじゃない?」と、周りの子どもたちも身の回りにあるものを次々と風に近づけ始めました。折り紙や小さく切った紙など、いろいろなものを試すうちに、送風口に紙を押し込み、「ビューン!」と飛び出してくることを発見。送風口の向きを変えてみるなど、何度も試しながら「どうしたらもっと飛ぶ?」と、飛んでいくものの動きやスピードを様々に変えてくれる風の力を楽しんでいました。

前日の準備では、「家のような空間を作れるように」と大きなビニールシートを用意していました。大人が「こんな遊びもあるよ」と紹介することで遊びが広がっていくのかなと思っていましたが、実際に始めてみると、子どもたちは大人が遊び方を示さなくても、自分たちで次々と遊びを広げていきました。特に、「人と風を入れたら面白そう」という一人の子の何気ない一言をきっかけに、遊びはさらに大きく動き始めました。子どもたちは大きなビニールシートを広げ、扇風機の向きを考えたり、風が逃げないようにテープで床に貼ったりしながら、みんなで試行錯誤。シートの中に大きな空間ができると、そこへ水筒や玩具を持ち込み、「ここ、おうちね」と、おうちごっこが始まりました。

さらに、スズランテープのポンポンを風に乗せて何度も飛ばしたり、風で膨らませた袋を腰につけて「蜘蛛」になったり。ビニールシートの空間を映画館に見立て、絵を描いたり椅子を並べたりする姿もありました。

「風で飛ぶかな?」という小さな発見から始まった遊びは、子ども同士の何気ない一言や気づきをきっかけに、みるみるうちに広がっていきました。今回のアートの日を通して、大人が「こういう遊びもあるよ」と紹介することだけが遊びを広げる方法ではなく、子どもたち自身の発想や言葉が、遊びを大きく動かしていくことがあるのだと感じました。子どもの「面白そう」から、こんなにも遊びが広がっていくことに、改めて「やっぱり子どもってすごいな」と感じた一日でした。



October Schedule

9 (金)	わらべうた (幼児)	23 (金)	お月見会~2日目~(全クラス)
15 (木)	身体測定		夜: お月見パーティー
16 (金)	アートの日 (のぼな)	27 (火)	柿狩り (幼児)
	ぼうさいの丘遠足 (幼児)		※予備日 11/2 (月)
	※予備日 21 日 (水)	28 (水)	芋掘り (のぼな・幼児)
20 (火)	調理の日 (のぼな)		※予備日 11/4 (水)
22 (木)	お月見会~1日目~(幼児)	29 (木)	避難訓練
		30 (金)	わらべうた (幼児)

November Schedule

5 (木)	歯科検診	16 (月)	わらべうた (乳児)
6 (金)	ぼうさいの丘遠足 (のぼな)	17 (火)	身体測定
	※予備日 13 日 (金)	18 (水)	農大さつまいも掘り
	アートの日 (幼児)		(そよかぜ・のぼな・幼児)
7 (土)	親子交流会	19 (木)	調理の日 (幼児)
10 (火)	調理の日 (のぼな)	24 (火)	消防署見学 (乳児)
13 (金)	わらべうた (幼児)	13 (金)	わらべうた (幼児)

退職メッセージ

開園から約6年間、子どもたちと関わらせていただき、本当にありがとうございました。1日として同じ日はなく、子どもたちと一緒に笑ったり、泣いたり、悩んだり……。一緒に心を動かしながら過ごした時間は、私の人生の中でも、最も色濃く、かけがえないものとなっております。

子どもも大人も「やってみたいをカタチに」を合言葉に過ごしてきましたが、それを実現してこられたのも、私たちの活動や挑戦をご理解いただき、一緒に心を動かしながら、共に歩んでくださった保護者の皆様がいてくださったからこそだと思っております。本当に感謝の気持ちでいっぱいです。

子どもたちのもつパワーや愛情、人との関わり方、物事の見つめ方など……「人」として、たくさんのことを教えてもらいました。ここで過ごした時間を胸に、これからは育児1年生として日々を過ごしながら、子どもとの関わりについて、さらに学びを深めていけたらと思っております。少し距離はありますがアトリエにも気軽に遊びにきていただけたら嬉しいです。

本当に、本当にありがとうございました。

篠原 千奈 / ちなちゃん



Nobana

イメージを表現する

のぼなの子どもたちは、絵本を手に取りながら自分で作ったお話を聞かせてくれる姿がたくさん見られます。大人の真似から始まった語りですが、文字がまだ読めないからこそ、途中でわからなくなると自分の想像をそっと足し、物語を続けていく姿がとても魅力的です。絵本の世界と自分の世界を自由に行き来しながら、思い描いたストーリーを友達や保育者に届けてくれるその時間は、のぼなさんならではの豊かな表現のひとつです。また、何かを触ったり作ったりしている時には、楽しい気持ちがあふれて歌になり、リズムに乗せて心を表す姿もあります。その歌につられて周りの友達も同じように声を重ねたり、リズムに合わせて話し始めたりすることもあり、子ども同士の表現が自然に広がっていく瞬間が見られます。アトリエが使えるようになった頃は、友達が入れれば入るけれど、いなければ入らなかった子が、ある時「新

幹線を作りたい」と自分から道具を手に取り、思い描いた形を作り始めました。他にも、自分で考えた生き物「さぼろがいや」を作り、「海に住んでいて、から揚げが好きなんだ」と目を輝かせながら話してくれた子もいました。頭の中の世界をそのまま作品にし、さらに物語として語ってくれる姿は、まさに創造の力が広がる瞬間です。最近では、大人が遊びを用意しなくても、自分たちの力で「やりたいこと」を見つけ、実現していく姿が多く見られるようになりました。絵本の物語、歌、作品づくり、どれも子どもたちが自分のイメージを形にしようとする大切な表現です。こうした一つひとつの表現が積み重なると、遊びの力は無限に広がっていきます。これからも、自分の思いを自由に表現しながら、世界をどんどん広げていく時間を大切にしていきたいです。大切に见守っていきたいと思っています。

capt by Tami Shungetsu



Soyokaze

ままごとの世界から、一歩外へ

今月から涼しい日には保育者や友達と手を繋いでお散歩に出かけているそよかぜさん。まだまだ「自分で歩きたい!」という気持ちも強いですが、少しずつ「道路を歩くときは手を繋ぐ」というルールが定着してきました。そんなそよかぜさんは、今月2回お買い物に出かけました。1回目は自分たちが使う紙粘土を買いに。2回目は、調理さんから「ビニール手袋を買ってきてほしい!」と声をかけてもらったことがきっかけです。

当日は、初めて7人全員が揃って手を繋いでお買い物へ!まずは事務所に行き、「(お金) ください!」と言って、自分たちでお金を受け取りました。準備を整えて歩き始めると、「おかいもの〜おかいもの〜」と歌いながら、お店への道のりも楽しんでいました。お店に着くと、初めての場所に少し緊張する子、気になる商品に手を伸ばしたくなる子、いつもと違う環境に興味津々な子など、一人ひとりの姿が見られました。買うものを見つけると、1回目のお買い物を経験した子が「レジはこちだよ!」と先導してくれる姿も。みんなでレジへ向かい、「はい、どうぞ!」と自分たちでお金を渡し、お目当てのものを買うことができました。いつもままごとで楽しんでいる「いらっしやいませ!」「はい、どうぞ!」のやりとりが、実際のお店でも見られました。

お散歩やお買い物を通して、少しずつ経験の幅が広がっているそよかぜさん。これからもいろいろな場所へ出かけ、たくさん「やってみたい!」を楽しんでいきたいと思っています。

capt by Rika Fujie



Komorebi

はじめまして

今月から始まったこもれびクラス。ひとり、ふたり、さんにん...と少しずつ増えてきたお友だち。はじめましての空間に、最初はドキドキ。たくさん涙を流す日もありますが、大人に抱っこをしてもらうことで安心して過ごせる時間も増えてきました。部屋での時間にも少しずつ慣れてきて、気になる玩具を見つけると一生懸命に手を伸ばして触ってみたり、大人の動きを真似してボールをコロコロ転がしたり太鼓の音を鳴らそうとしたり。また、上手にできると大人の表情を見て一緒に「ニコッ」と、やわらかく可愛らしい笑顔を見せてくれるようになってきています。

はじめは緊張だったミルクの時間も、大人の声かけや哺乳瓶が見えると口をもぐもぐ動かして反応を見せてくれるようになりました。抱っこをして哺乳瓶を口に近づけると、小さな口をパツと開けてゴクゴク。大人と一対一でゆったり過ごすミルクの時間。お腹も心も満たされたような、子どもたちの表情が印象的です。そして、少しずつ増えてきたお友だちの存在もはじめは気になりながら、遊んでいるときに近くにいると「じゅ」と見つめたり、持っている玩具が気になって手を伸ばしてみたり。ふとした瞬間に目があって「おっ」「あれっ?」というような様々な表情を見せながら、お互いのことに気づきはじめています。これから始まるラポでの時間。きつと数え切れないくらいたくさんさんの経験をしていくのだと思います。こもれびクラスで過ごしていく半年間、ラポでの安心の土台となるような時間を子どもたちの成長と共に築いていけたらと思います。

capt by Miki Toge

